

# 平成19年の 四国地域における湧水報告

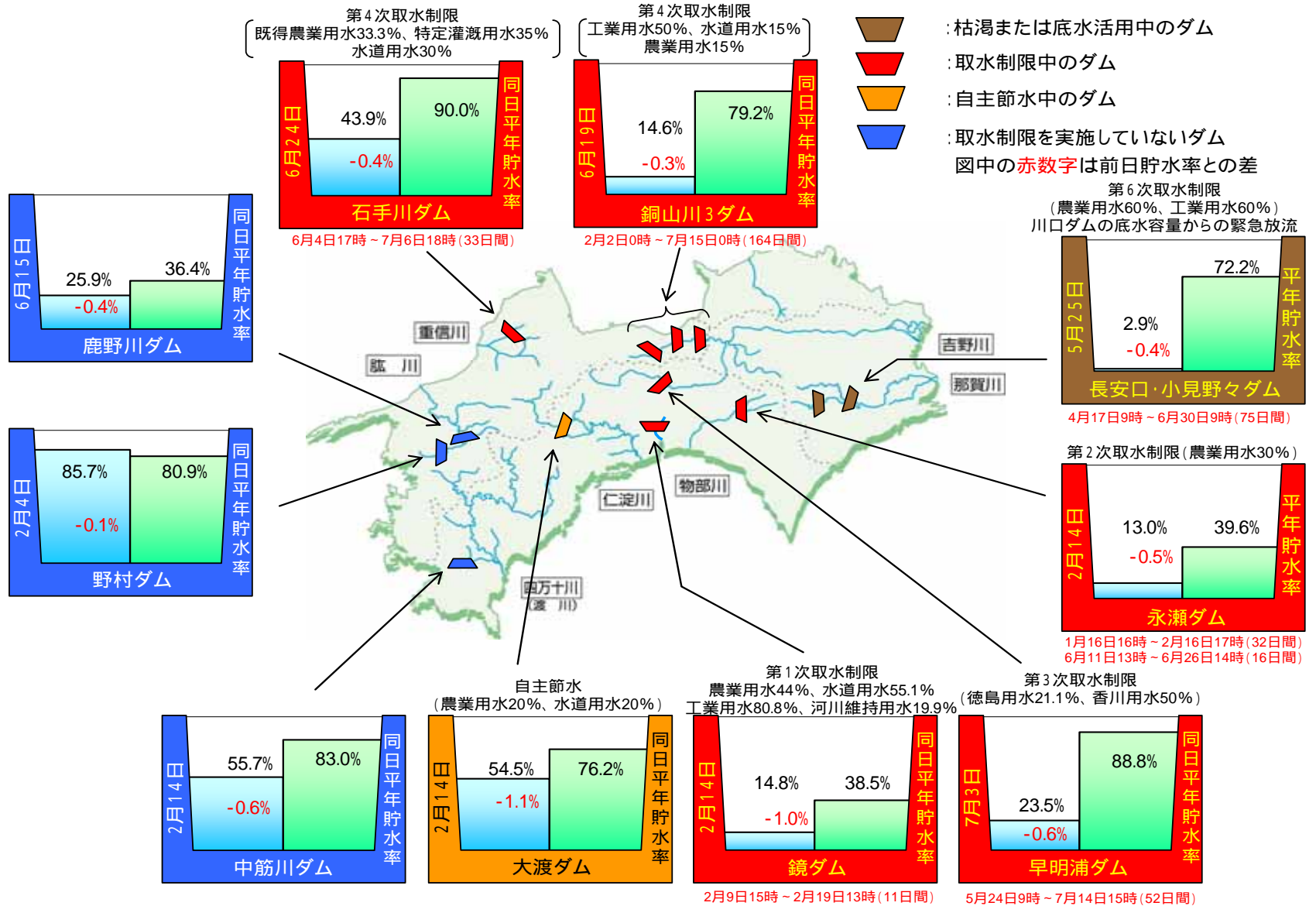
平成19年10月5日

四国地方整備局 河川部

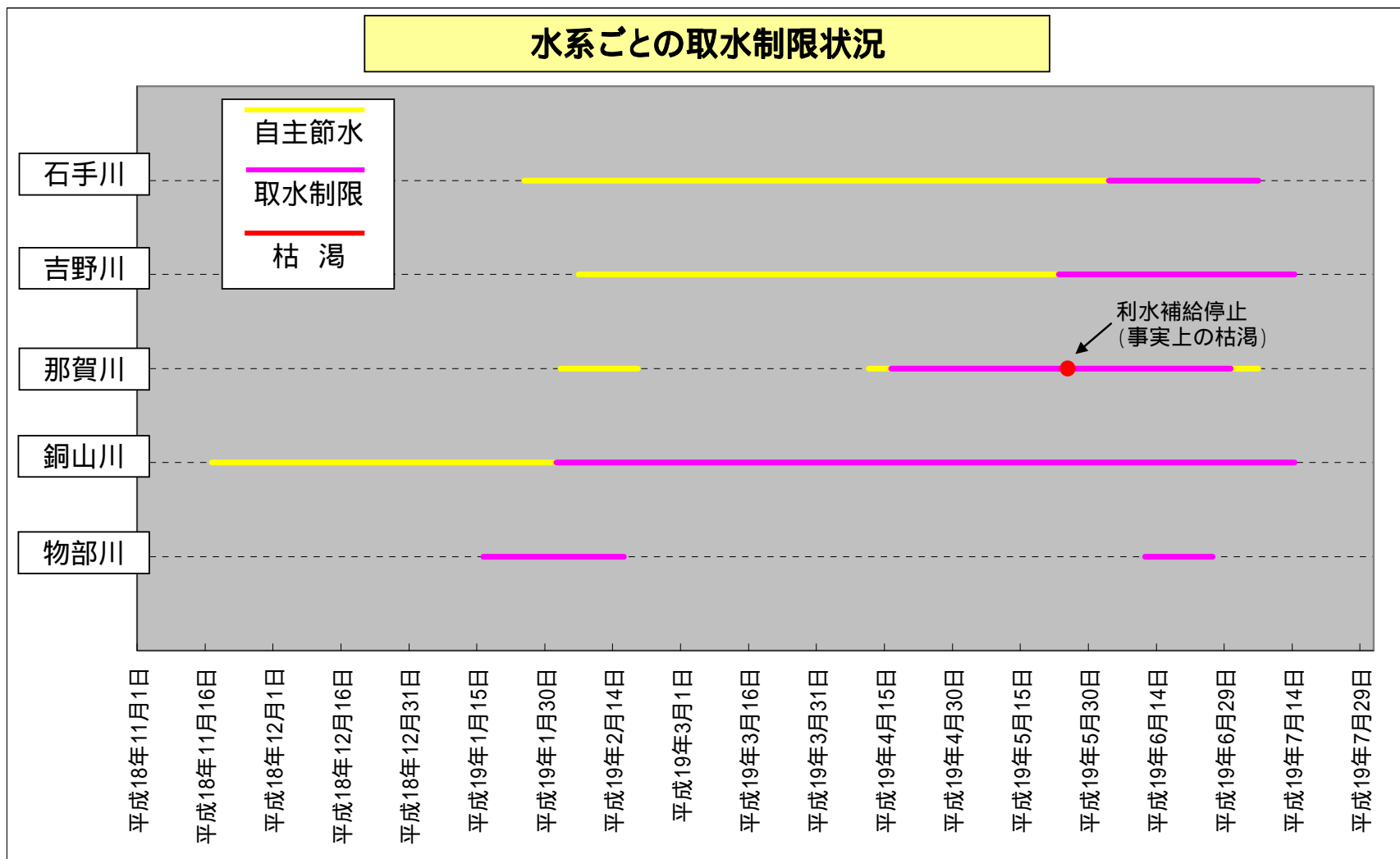
# 四国地方整備局管内の湧水について(まとめ)

## 平成19年 四国の湧水 (ダム状況)

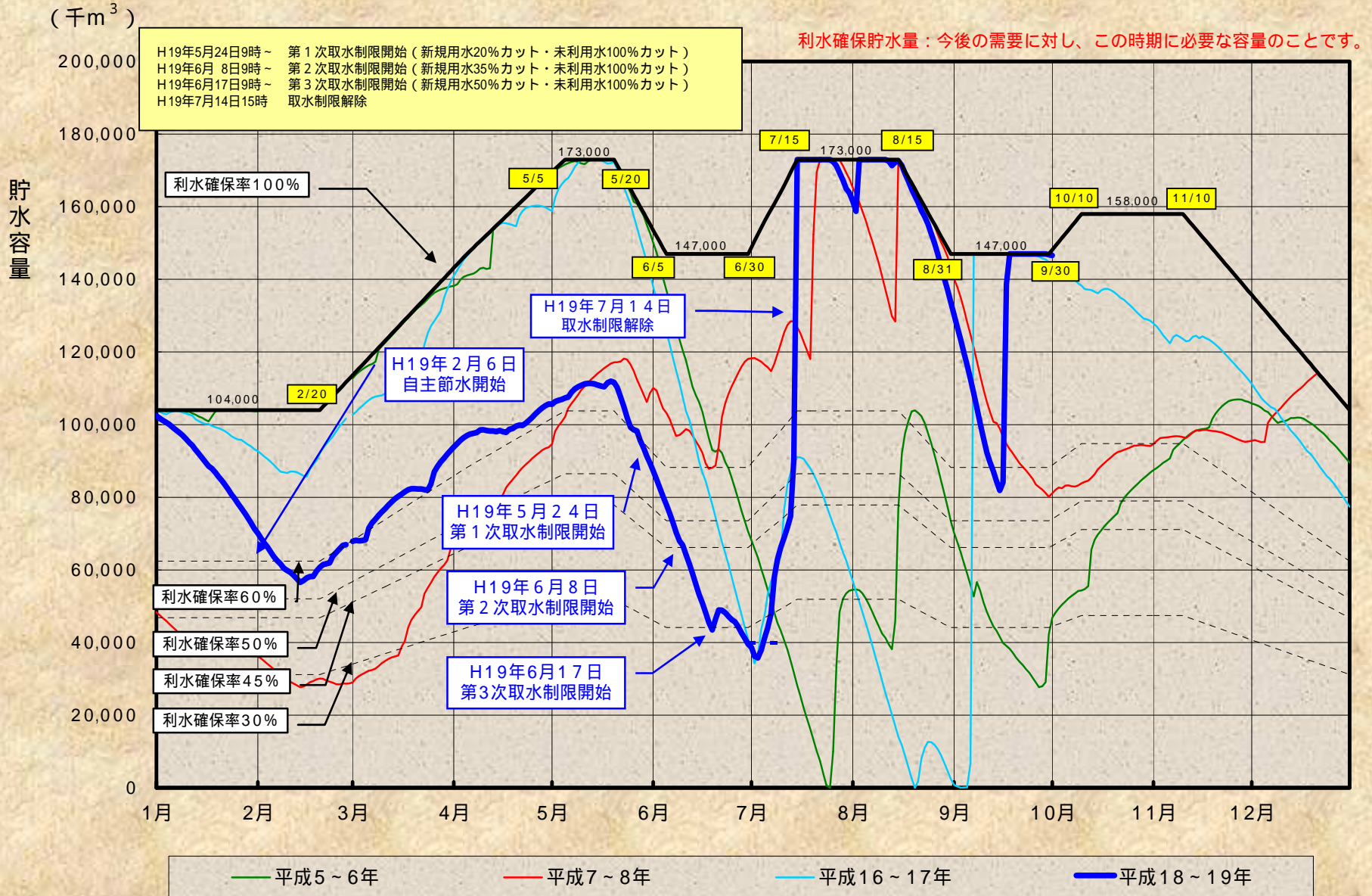
最も湧水が厳しかった時期のダムの状況 (貯水率・取水制限率)



- ・昨年の冬から続いた記録的な小雨により、異例の時期から自主節水や取水制限を実施。
- ・那賀川水系の長安口ダムで利水補給停止(事実上の枯渇)が発生、早明浦ダムにおいても一時貯水率が23.5%まで低下した。
- ・7月14日に四国沖を通過した台風4号により貯水率が回復し、14日に整備局の渇水対策本部は解散した。



# 早明浦ダム貯水池状況図



# 早明浦ダムの貯水池状況

夏

7月2日 貯水率23.8%



台風4号

7月15日 貯水率100%



秋

9月12日 貯水率60.8%



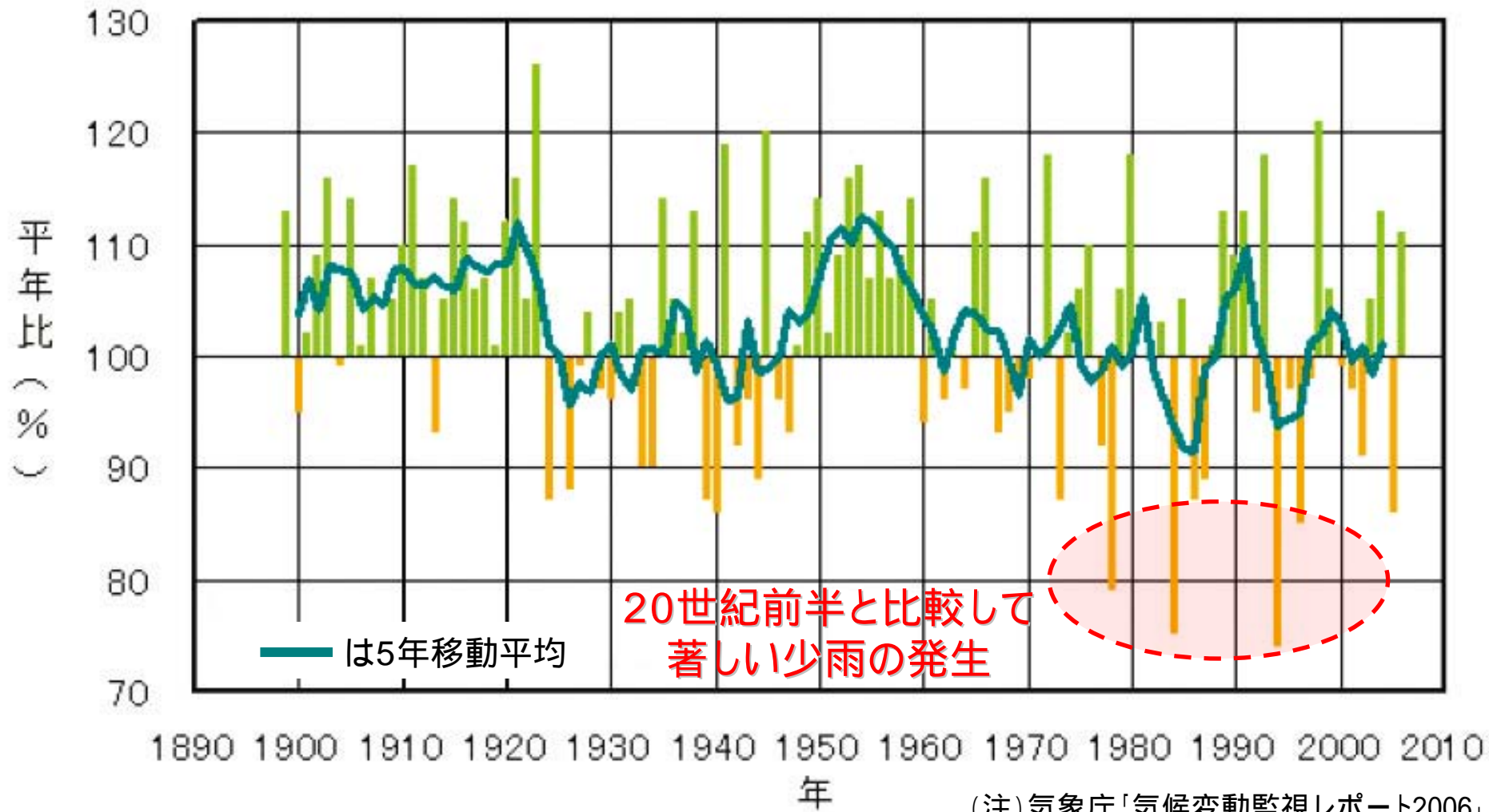
台風11号

9月18日 貯水率100%



# 気候の変動に伴う洪水・渇水リスクの現状

## 日本の年降水量平年比 年毎の変動幅が広がる傾向

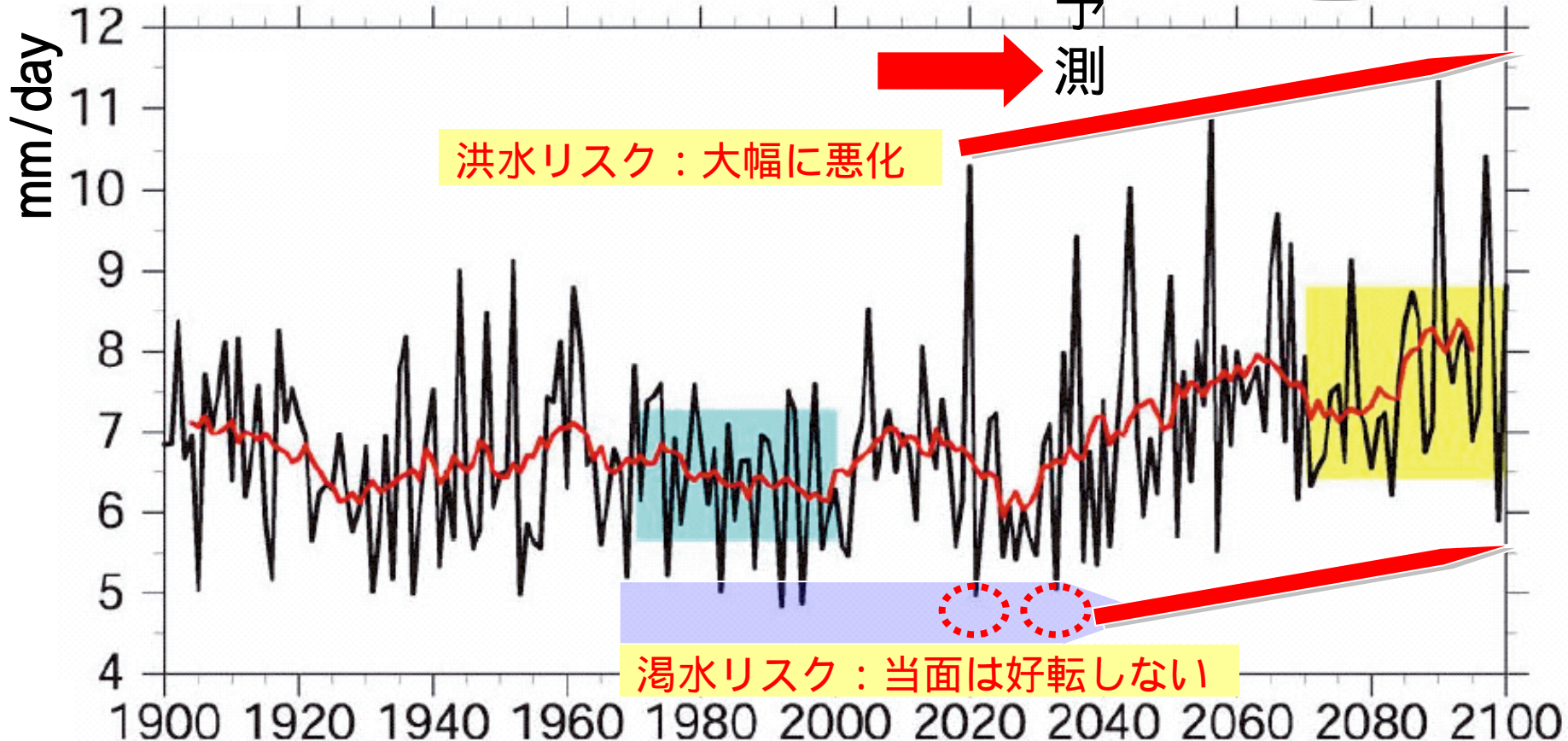


# 気候の変動に伴う洪水・渇水リスクの予測

## 日本の夏(6月~8月)の平均降水量の推移

- ・降雨量は増加し、変動幅が拡大
- ・今後、数十年は平成6年渇水レベルの少雨が生じる

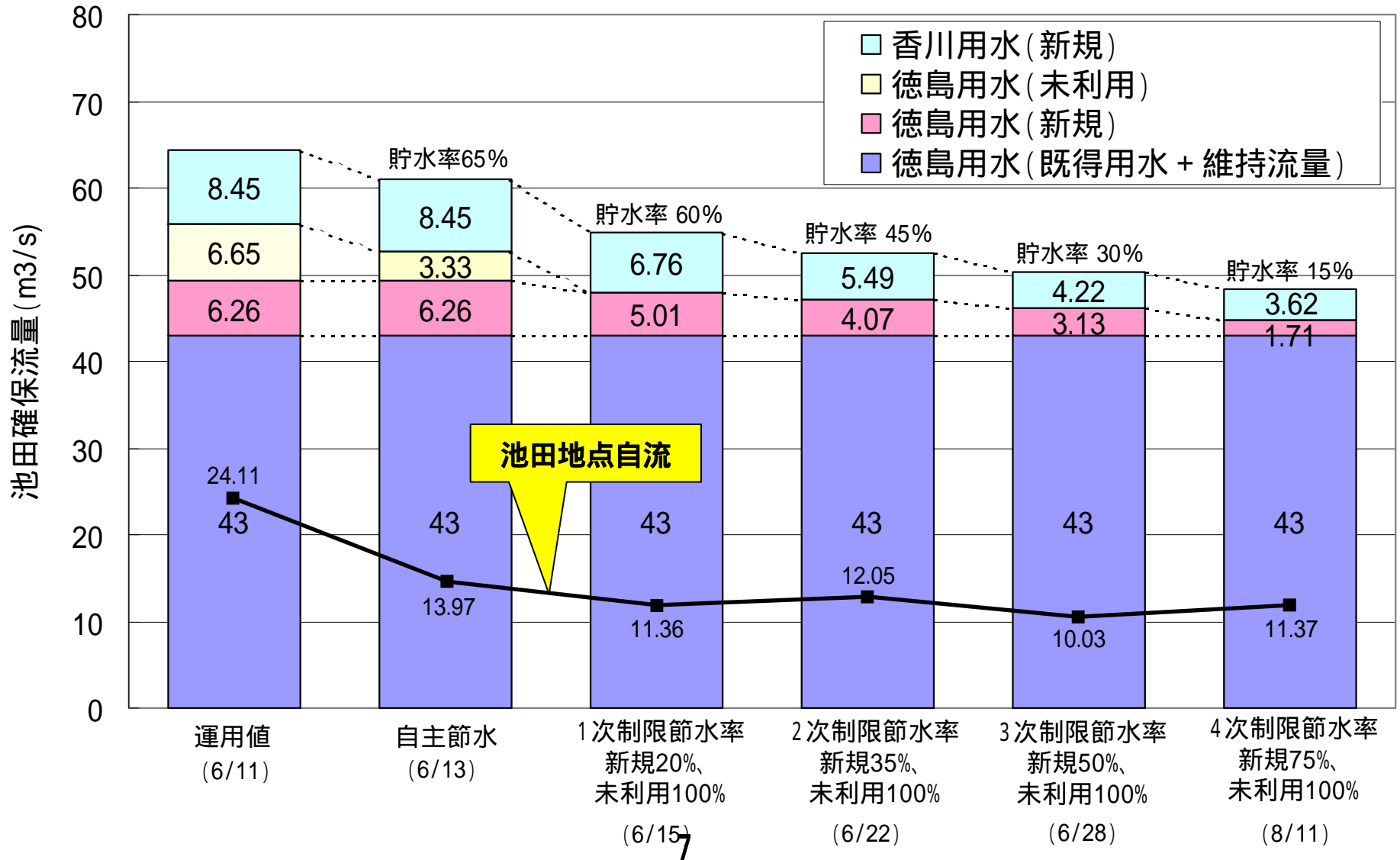
水管理がさらに難しく



(注) 1. 木本昌秀, 2005: 地球シミュレータによる地球温暖化予測, 水資源学シンポジウム「国連水の日 - 気候変動がもたらす水問題」, 2005年3月23日 発表資料  
2. 黒線が年々の値で, 赤線が10年移動平均を施したものの。  
3. 2071~2100年(黄色)の年々の変動幅は, 1971~2000年(水色)と比べて増加している。  
4. 都市化の影響は考慮されていない。

# 平成17年渇水時における、 維持流量、既得用水、新規用水について

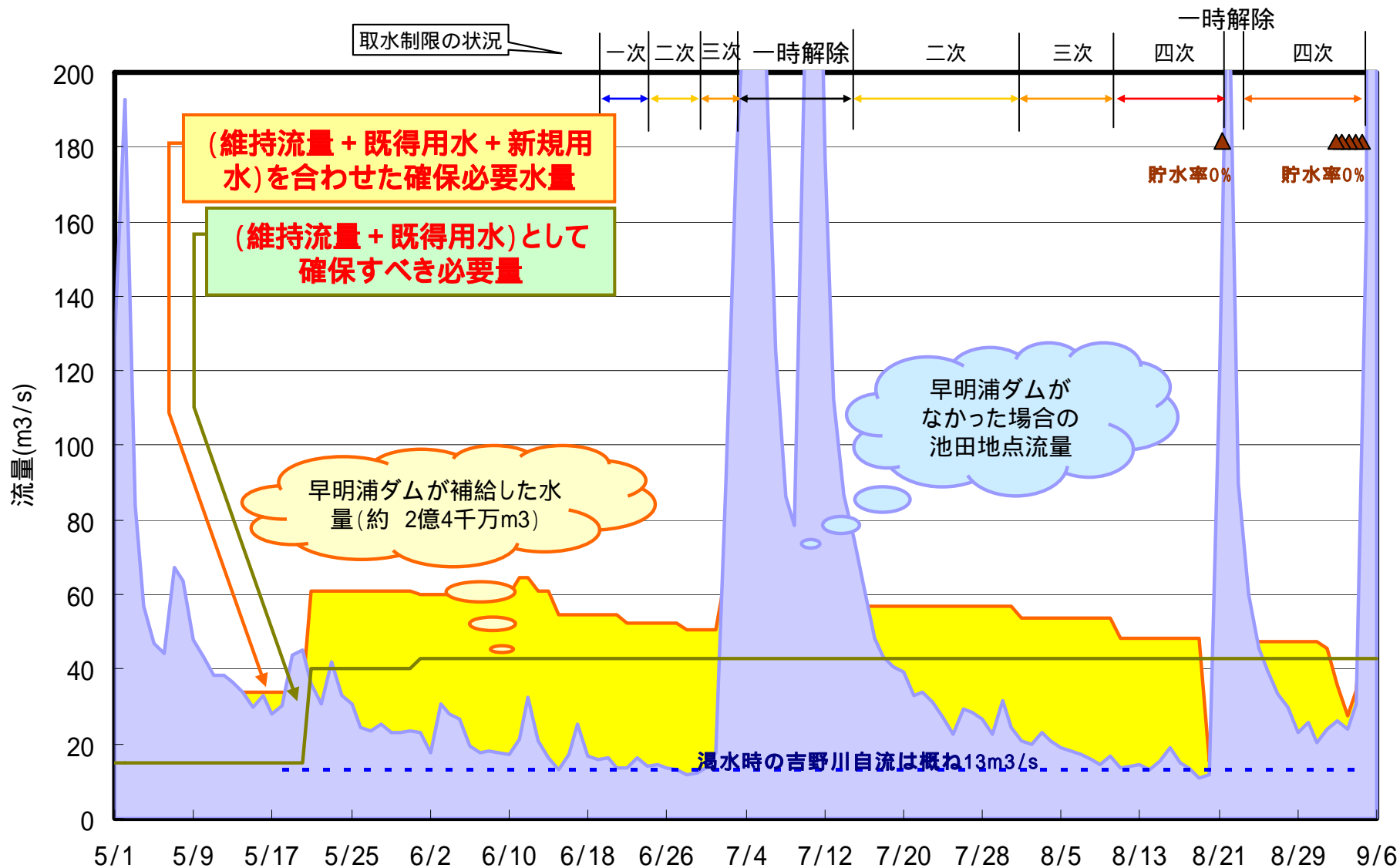
- ・池田確保流量は、期別毎の運用値に節水率を乗じて算出した流量である。
- ・池田地点自流量は、( )内の日付時点における流量である。





平成17年渇水時においても、早明浦ダムからは  
維持流量、既得用水、新規用水への必要な水の補給を行っています。

池田地点の流況(平成17年渇水)



# 渇水調整 (取水制限) による効果

吉野川水系水利用連絡協議会において、需要状況をふまえ渇水調整 (取水制限率等) を決定し、ダムを延命させている。平成17年渇水では、渇水調整の結果14日間ダムを延命させた。

(千m<sup>3</sup>) 早明浦ダム節水運用シミュレーション状況図

利水確保貯水量: 今後の需要に対し、この時期に必要な容量のことです。

